

平成31年度 第1回豊明市子ども・子育て会議 議事録

平成31年4月25日(木)

午前1時15分から

豊明市役所東館1階 会議室4

○出席委員

鈴木会長、山田委員、杉山委員、松島委員、原委員、長谷川委員、山田委員、石田委員、山崎委員、石原委員及び時高委員

○議事録

事務局

本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。ただ今から第1回豊明市子ども・子育て会議を行います。委員14名のうち、11名の方のご出席をいただいております。過半数の出席がございますので、会議は成立いたします。

この会議は、「公開等に関する取扱要領」に基づき公開となっておりますが、今回は傍聴を希望される方がいらっしゃいませんので、このまま始めさせていただきます。

はじめに、健康福祉部長よりご挨拶申し上げます。

健康福祉部長

日ごろは本市の子どもたちの教育・保育、また子育て支援行政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。4月1日より健康福祉部長を拝命しました。皆さまのご意見も賜りながら、将来を見据えて確実に健康福祉部の事業を推進していきたいと考えております。昨年度、保育課と子育て支援課という新しい体制となりました。今年度は更に一層円滑な行政運営ができるよう、幼稚園に関する業務を学校教育課から保育課に移管しました。本市の子ども・子育て施策には、ご案内のとおり多様化するニーズへの対応と施設環境の維持・更新などの課題がございます。いずれも豊明市のまちづくり、暮らしの質に直結する重要な課題であると認識しております。多様な分野の皆さまの知恵と力を拝借しながら、着実な施策展開を進めていきたいと考えております。計画の策定年度としては2年目となりますが、令和という新しい元号となり、新たな時代のスタートとも符合します。

この度は基礎調査結果のとりまとめが完了いたしましたので、このニーズから、将来を見据えた施策の構築につなげていきたいと考えております。忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

事務局

続きまして、資料の確認をお願いします。

(資料確認)

これから議事に入ります。以降の進行については会長の鈴木様にお願いしたいと思えます。鈴木会長をお願いします。

会長

次第に沿って進めてまいります。議題（１）「豊明市第２期子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査結果について」説明をお願いします。

委託事業者

（「豊明市第２期子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査結果について」資料１に基づき説明）

会長

ご不明な点やご質問はありますか。

委員

実施概要の抽出方法の欄に、就学前児童が２，０００名、小学生が１，０００名の合計３，０００名とありますが、もしわかるようでしたら、外国籍の保護者はどの程度の割合ですか。

事務局

対象者は無作為抽出で、回答用紙は無記名のため、回収した方のリストはありません。回答者の国籍を聞いている設問がありませんので、把握できません。

委員

なぜ質問したかといいますと、今年豊明市内で外国籍の方が３，０００人を超えまして、今後も外国籍の方は増えてくると考えられますので、ニーズも取り込んでいく必要があると思いました。

会長

ご意見ありがとうございました。他にはいかがですか。

委員

報告書に「児童発達支援を利用する人」とありますが、どの程度の方でしょうか。一般的な保育園や幼稚園へ通っている方でも、発達支援に該当する子どももいると思うのですが、保健師などが把握しているのかなどお聞きしたいです。

会長

どのように児童発達支援が必要かと判断しているかということですね。

事務局

保健師が3歳児健診等の健診時に発達の遅れを確認して、サービスに繋げる場合があります。また、保護者自身がかかりつけ医に相談される場合もあり、色々なパターンがあります。合わせて、毎日様子を見ている学校や保育園などの職員が保護者に相談するという場合もあります。

委員

保護者に支援を利用してください、と言い切っているわけではなく、「どうですか」と促しているということですね。しかし、現状ではもっと利用すべきと思う子どもはたくさんいると思います。少しでも疑いのある場合は相談できるように、もっと敷居を低くすれば、小学校や幼稚園等で本人、家族、職員の方もうまくいくのではないかと思います。もう少し明確な基準があれば良いのではないかと思います。

事務局

保育園では前年度の受付日に、まずは園長が面接をします。その時になかよし教室やフォロー教室に入っているお子様を見つつ、面接した後に必要な場合は再面接という形でも見させていただいております。また、子育てルームなどにも各職員が出向いて、保護者の方に声を掛け、まずは子ども達にとってどの環境が一番適するかを第一に考えて、入所を進めています。入所せずに事業所を利用される方も、特別支援クラスを利用される方もいます。

会長

障害のある方に対する対応は、多様なニーズという部分に該当するのではないかと思います。他市の事例を聞いても、課題が多いようですので、もっと気楽に共有できることがあれば良いかと思います。その他、質問やご意見はいかがでしょうか。

委員

「地域子ども子育て支援事業」の利用状況について、センターや児童館等を利用していない結果がわかれば、より活用していただけるようになるかと思えます。単純に6割の方が利用していないということは、市の事業のPR不足ということも一因として考えられます。ホームページや広報の情報を、保護者の方が積極的に利用してみようと思わせるような内容にしていただけると良いかと思えますので、前向きに検討していただければと思います。

会長

利用していないと回答された方が多い事業については、保育園に通われている等の理由で必要ないと回答された方も多いのではないかと思います。そのような認識でよろしいでしょうか。

事務局

会長のおっしゃる通り、利用が必要ないとお答えいただいた方も多くなっています。しかしながら、年齢別にみると2歳児までは利用している割合が多くなっております。必要としている方にいかに利用してもらうかが今後の課題ではないかと思えます。ヒアリング調査などを実施しながら、改めて課題を抽出していきたいと思えます。

会長

今後、報告書の本体があがってくると思えますので、また忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。

それでは、議題（2）に進みます。「平成31年度スケジュールについて」ご説明ください。

委託事業者

（説明要旨）

- ・ヒアリング調査の実施等を踏まえ、更にニーズ調査では得られなかった課題抽出を行う。昨年度収集した統計資料から、客観的に見た課題もとりまとめる。
- ・ニーズ量算出については、教育・保育事業の量の見込みを立てて、確保の方策の中で豊明市として推進できるかどうかを検討する期間を設けている。まずはニーズ調査の結果で算出し、そこから実績を踏まえて見込み量を確定していく。
- ・地区別でニーズ調査結果を分析する。

- ・今後計画の骨子を作成し、次回会議等にて検討いただく。8月以降に素案を作成する。来年の3月までには計画書を完成させる。
- ・ヒアリング調査では、まず児童館や支援センター等の子育て支援団体に対して実施し、子育てに関する現状や課題を聴取しながら市の特性について把握する。まずは5月に調査票を配布して回収した後、必要に応じてヒアリングを行う。保育園・幼稚園等に対しては、預かる側の運営課題や保護者の意向等を聴取する。
- ・市内で第1期計画の施策評価を実施する。廃止した事業と継続する事業を把握し、次期計画の体系図を作成する。
- ・保護者向けのワークショップ開催を予定している。結果はとりまとめ次第、本会議で報告する。

会長

ヒアリング調査等の結果は次回会議で報告いただけるとのこと。以上で議事は終了となりますが、他に事務局から何か連絡はございますか。

事務局

本会議は、公開等に関する取扱い要領に基づき、議事録等については、ホームページに掲載させていただきます。次回の会議は計画骨子等を作成する関係で7月前後に開催を考えております。

会長

これをもちまして、平成31年度第1回会議を終了します。

以上